

(別紙様式1)

平成25年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

学 校 名	垂井町立垂井小学校		
実 施 期 間	平成25年11月16日(土)		
実 施 概 要	①授業参観(人権に関わる学級活動、あるいは道徳) ②親子で人権を考える会 ・人権映画「新ちゃんがないた」の鑑賞 ・人権を考える会(人権ワークショップ、交流会)		
実 施 内 容	学習・取組の分野 <input type="checkbox"/> 自然 <input type="checkbox"/> 歴史 <input type="checkbox"/> 文化 <input type="checkbox"/> 産業 <input checked="" type="checkbox"/> その他		
	公開の方法 <input checked="" type="checkbox"/> 授業公開 <input type="checkbox"/> 成果発表 <input type="checkbox"/> 交流活動 <input type="checkbox"/> 講演会等 <input type="checkbox"/> 地域行事等参加 <input checked="" type="checkbox"/> その他(人権を考える会)		
来 校 者 数	保 護 者	203人	計 203人
	地 域 関 係 者	0人	
実 施 状 況	①授業参観について 午後からの1時間を参観授業として公開した。今回は、授業参観後に「親子で人権を考える会」を位置付け、「ひびきあいの日」に向けて人権について考える取組の一環とした。 そこで、授業参観では、学級活動、あるいは道徳において、人権に関わって心を耕したり、学級や自分を振り返ったりする授業を公開した。土曜日に位置付けたこともあり、父親の姿も多く見られるなど、全PTAの8割近い参加があった。 ②親子で人権を考える会(映画鑑賞、人権についての交流会) 5限目の授業参観の後、児童と保護者が体育館に入り、一緒に人権映画「新ちゃんがないた」を鑑賞した。その後で、児童は人権ワークショップを行い、人にはいろいろな感じ方や好きなものがあり、それを尊重し合うことが大切なことを学んだ。一方で保護者は、普段の生活や人権映画をもとに、子どもたちの人権感覚や、人権感覚をどうやって育てていくかについて交流を行い、家庭で話題にしていくことを確かめ合った。映画後の交流会への保護者の参加は58名であった。		
成 果 及 び 課 題	成果 ○保護者に、人権に関わる学級活動や道徳の授業を観ていただき、学校で行っている人権教育について知っていただくことができた。特に学級活動では、人権という視点から学級の様子や自分自身を振り返る姿を見ていただき、子どもたちの成長を感じていただくことができた。 ○人権映画後の懇談会では、以下のような意見が出され、子どもへの関わりを見つめ直すきっかけとなった。 ・子どもの感動する場面と親の感動する場面が違う。つまり、親の気付いた価値に子どもは気付いていない。だからこそ、帰ってから映画について親子で話し合う必要がある。それが親の役割である。 ・日頃、人権について子どもと話すきっかけがなかった。今日、帰って話し合いたい。子どもは親の影響を受けるので、子どもに普段どう接していくのか考えなくてはならない。 課題 ●映画鑑賞までは多くの保護者の方が参加して下さった。今後は、人権についての交流会まで残っていただけるよう日程や方法を見直していきたい。		